堺民俗

第177号　令和8(2026)年7月発行　©堺民俗会　Since1947

堺出身の総理大臣

北埜秀夫

昭和を生きた日本人なら全員が忘れられない大戦争の収拾という救国の難事業を成し遂げた総理大臣です。

そうです。昭和20年8月15日の終戦を取り纏めた第42代総理大臣鈴木貫太郎です。

堺との関わりを細かく取り上げながらその生涯を記述したいと思います。

鈴木貫太郎の生没年、生没地を左に記します。

生没年月日
慶応3年12月24日(1868年1月18日)生
同年生まれに夏目漱石、正岡子規がいます。
昭和23年(1948)4月17日没　満80歳

出生地
和泉国大鳥(鳳)郡(こほり、ごおり)伏尾新田の関宿(せきやど)藩飛地、代官陣屋(現堺市中区伏尾)　関宿藩所在地は現千葉県野田市関宿町にあたる。

終焉地
千葉県東葛飾郡関宿町(現・千葉県野田市関宿町)

侍従長になったことを祝って昭和4年6月生誕地に建てた「鈴木貫太郎誕生之地之碑」があります。

海軍の鈴木貫太郎の碑文を犬猿の仲であるはずの陸軍の第四師団長が揮毫(きごう)しています。貫太郎の人徳の大きさが感じられます。

碑はその後久世校区地域会館の左隣の、道路に面した場所に移設されています。(堺市中区伏尾234番地)。



(写真　北埜)

Google Map で「鈴木貫太郎生誕地」と検索すると地図上に位置が表示されます。会館の右側には広い無料駐車場があります。

貫太郎の父、鈴木為之輔(明治維新後由哲に改名)は譜代大名・関宿藩(五万八千石)藩主久世家の家老です。

歴代の久世氏は徳川幕府の大坂城代、京都所司代、寺社奉行、外国奉行、老中首座等の要職を務め、中でも最も重きは久世廣周(ひろちか)が老中になり皇女和宮降嫁に成功した一件です。(文献4、5)

鈴木為之輔が代官として飛地の和泉国大鳥郡伏尾新田に赴任しているときに、貫太郎は長男として生まれました。

この泉州の飛地領は大鳥郡では、上、上下両別所、桧尾、大森、野々井、上神和田、平井、小阪、八田、伏尾新田、楢葉向山新田、東山新田、栂の13ヶ村です。

和泉郡では、下宮、小野田、九鬼、池田和田、室堂、鍛冶屋、唐国、内田、松尾寺、春木、久井、国分、池田平井、黒石、納花、三林の16ヶ村計29ヶ村、一万十石の領地でした。(参考文献3、4)

三歳の時、1871年(明治4年)廃藩置県により東京を

左海民俗　第一七七号
令和８（２０２６）年７月
発行人　佐　原　浩　一
編集者　佐原浩二・北埜秀夫
　　一色若夫
印刷所　(株)プリントバック

ブログ
https://ameblo.jp/skmz2014

年会費　４０００円
郵便振替　００９３０－７－３１７５７６